

平成30年 9月市長定例記者会見

日 時：平成30年8月30日（木） 午前11時～午前11時30分

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、富山テレビ放送、
チューリップテレビ、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、未来創造課
長（司会）、生涯学習・スポーツ課長、射水市新湊博物館長、農林
水産課長

質疑応答の概要

Q1 . 障害者雇用について。県内でも障害者雇用者数の算定に誤りがあったが射水市の状況について伺いたい。また、7月から暑い日が続き、小中学校では、もうすぐ2学期が始まるが、改めて、射水市の小学校のエアコン設置について市長の考えを伺いたい。

A1 . まず、障害者雇用について。射水市では、採用試験において障がい者枠を設けるなど積極的に雇用を進めてきた。6月1日現在で障害者雇用率は3.03パーセントであり法定雇用率の2.5パーセントを上回っている。雇用率の算出については、採用時、また、手帳取得時に手帳の確認をし、写しの提出を求めている。富山県障害者（児）団体連絡協議会から富山県に対し県及び県内自治体に実態調査等の申し入れがあった。県においては、全職員に対し障害者手帳の有無や等級の変更などの実態調査を行っている。このことを踏まえ、射水市でも改めて全職員に対して手帳の有無を現在調査している状況である。次に、エアコンの設置について。中学校については全普通教室に設置済みである。小学校についても、次年度から2年計画で市内15のすべての小学校普通教室にエアコンを設置する計画であり、現在、実施設計に取り組んでいる。国の動向や近隣市町村の方針を踏まえて射水市でもできるだけ早期の設置に向けてしっかりと取り組んでいきたい。

Q2 . 障害者雇用について。実態調査を行う上での「全職員」とは障がい者枠で採用された全職員が対象なのか、その枠に限らず全職員が対象なのか伺いたい。また、実態調査の結果はいつ頃出る見通しか伺いたい。

- A 2 . まず、実態調査の対象は障がい者枠に限らず全職員である。実際に、障がい者枠でない職員であっても、手帳取得時における確認を行い、数値として計算に入れている。調査結果については、9月上旬を見込んでおり、まとめ次第公表する予定である。
- Q 3 . ふるさと納税について。ふるさと納税を巡っては返礼品が豪華などと賛否両論ではあるが、射水市のふるさと納税の受入状況をどう見ているのか、また、今回充実させた狙いや期待など伺いたい。
- A 4 . 総務省からふるさと納税の返礼品の考え方については、寄附金の3割程度でというお話をいただき、昨年見直しを行った。その影響かどうか分からないが、一昨年と比べ昨年はふるさと納税が大幅に減少した。その点も踏まえ、ふるさと納税は射水市の特産を知っていただく機会であり、返礼品を提供していただいている市内の事業者などの活性化に通じると考えている。寄附区分の見直しについては、提供していただいている事業者に仕入れ価格などを見直していただいたことで実現できた。また、「ふるさと定期便」を新たに設けることで、四季を通じて射水の魅力を感じてもらえるようにした。今後はしっかりとPRしながら射水の魅力を多くの方に知ってもらう機会にし、いただいた貴重な寄附に関しては市の様々な課題の改善、また、解決に活用したいと考える。